

Ceramic Art 陶芸

陶芸専攻では、ロクロ・手びねり、絵付けなどの装飾実習、釉薬・焼成実習など、生活を豊かに彩る食器から大型の造形作品まで幅広い制作を通して、粘り強く物事に取り組み続けることのできる力を育みます。



Dyeing and Weaving 染織

染料で布に色彩豊かな絵柄を表現する「染め」と、様々な質感を持つ糸を組み合わせ布そのものをつくる「織り」を学びます。手仕事を通して伝統的な染織の技法、織維や染料の知識を学びながら、深く思考し造形する力を育てます。

専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- 自分が立てたゴールへ試行錯誤をしながら進める行動力
- 素材の性質を理解し、焼き物特有の美を探るものづくり力

使用する主な素材・機材等

電動ロクロ / 信楽土 / 各種釉薬 / 上絵具 / 下絵具 / 焼成窯 / スラプロローラー など

専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- 多様な工程の全体像を把握し、計画的・主体的に取り組む行動力
- テーマや条件を正確に理解し、独自のアイデアを生み出す発想力

使用する主な素材・技法等

綿 / 絹 / 羊毛 / 化学繊維 / 化学染料 / 植物染料 / ろうけつ染 / 型染 / 捺染 / 絞り染 / 藍染 / シルクスクリーン / 綴織 / 平織 など



専攻インタビュー

**陶芸専攻
令和5年度卒業生
Shunma Hara**

仲間と協力して作業を行う協調性や、スケジュール管理の大切さ、自然の素材で有機的である土という素材としっかり向き合う姿勢を陶芸で学びました。将来は陶芸は続けつつ教員や別の仕事をし、そこで学んだことを最終的に陶芸の作品につなげていけたら幸せだなと思っています。

コーヒーカップ

揃い物で、サイズや高さの同じものを作るという、コーヒーカップ制作の課題。私は凄くろくろが苦手だったので、とにかくたくさん数を作りました。放課後や昼休みなども、作業できる日や時間を見つけては制作をしました。失敗してもカップを半分に切って「何がどこが駄目なのか」「土を取る量がどうなのか」などしっかり失敗の原因を調べて反省したり、先生からのアドバイスを聞き、次の作業の時に同じ失敗をしないよう取り組みました。



自由課題（美工作品展）

粘土の柔らかい性質を生かした、薄い布のような表現を目指して制作しました。最初は何度も失敗し挫けそうになることもありましたが、実験を重ね、粘り強く作品と向き合うことで新しい技法を発見し、完成することができました。粘土という素材も別の手を加えることで、欠点を補いつつ、特性を生かすことができると気づき、素材を研究することの面白さを感じました。特に、思い通りにならない中でも粘り強く向き合う姿勢の大切さを学べたのかなと思います。



専攻インタビュー

**染織専攻
3年生
Kazuyo Hara**

染料の色の鮮やかさや美しさに惹かれて、そういった色扱えるようになりたいと思い選んだのが、染織でした。私は将来は色々な文化に触れ、新しい自分を見つけていきたいと思っています。そのために今は何事にも興味を持ち、様々なことにチャレンジしようとしています。

織り

生き物をモチーフにタペストリーを作る課題です。織りは1本1本糸を通して織っていくという地道な作業の積み重ねですが、その作業を経て1枚の布になることにすごく達成感を感じました。この経験を経て、小さいことでも日々の積み重ねが大切なんだ、ということに気がきました。そのことを普段の生活でも活かして一日一個でも課題や授業の復習をするなど、小さいことでも継続し大きいものに繋げていく力を得ることができました。



染め

植物をモチーフに浴衣を作る課題で、私は椿をモチーフに制作をしました。デザインを考える上で、「観察」を大事にしたいと思い、顕微鏡を使って椿の花を観察しました。花卉の繊維や、雄しべや雌しべの形の魅力を活かしたデザインにしました。

この課題で特に苦労した点は、表現したい色を染料で作ることです。染料は乾くと薄い色になることや、定着作業の後に色落ちするなど、色の濃さを調節するのがすごく難しく、試行錯誤しました。同じ失敗を繰り返さない為に、そのつど分析し、最後は自分の納得する色味を表現することができました。この課題では失敗を成功に繋げる力が身についたと思います。

